

# 琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 一般重要案件(3)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43795">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43795</a>

殉国学徒追悼慰霊祭援助金

官房長

JUN 22 1965

官房総務参事官

北米局長

参事官

北米課長

殉国学徒追悼慰霊祭

に対する援助金支出方針の閣内資料

40.6.21

北米課

1. 殉国学徒追悼慰霊祭準備委員会

本年6月23日は、沖縄で勤労士

殉国学徒の満20周年忌

同日慰霊祭を閣内催す趣意

外務省にもこれにかつ援助金を

頂きたい旨、官房総務宛申出

である。

2. 戦没者慰霊の行事は、厚生省の所管

あり、沖縄関係見地からすれば、

特別地域連絡局の所掌であり、

外務省としては本件行事は、

GA-4

3101 外務省

沖縄に關する米口との交渉事務

係り、全く国内的な行事である

本件追悼会に、特達局又は厚生

省に先んじ、又は同様に参加

すべきではないと見られる

3. 以上関係者の申し出は、本件は特達局

又は厚生省に申し出ておられる旨

伝えることと致した。

この方針に従い関係者との協議を

おこなうこと。事件後援者は厚生省

のほか、特達局へ申し出の可否と

する旨を付し、特達局へも(既に決定

へ関係)その旨電送の取つておられる

GA-4

外務省

一般要

如通事と送の

# 趣意書

## 殉国沖繩学徒追悼慰靈祭準備委員会

殉国学徒顕彰会

### 趣意書

祖国の栄光を信じ、微笑んで出陣して征つた学徒たちが還らなくなつてから、今年でもう二十年になる。

中でも胸を打つて悲しいのは、今次大戦で最後の激戦地となつた我が沖繩県の学徒たちである。

今でも八文半の軍靴として、涙の中に語られている慶良間島に於ける小学生の玉砕を始め、黒髪長く夢多かつた女学生が、ひめゆり部隊、白梅部隊、ずいせん部隊、梯梧部隊、積徳部隊等を編成して軍属となり、砲煙弾雨の中に身を挺して看護の任を遂行し、また童顔の中学生が鉄血勤皇隊を組織して陸軍二等兵になり、急造爆雷を背負つて敵戦車に突入し、或は息絶えるまで通信の任務を続行し或は手榴弾を固く握りしめて敵陣に斬込み「大日本帝国萬歳」を絶叫したのである。

歲月風霜も消し難きこの事実——果して何処の国に、このような最期を遂げた学徒があつたであらうか。。。(これらの学徒につ



いては「殉国沖縄学徒隊愛」と鮮血の記録。。金城和彦著」として  
近く刊行する予定)

沖縄の山河は黙々として誇ることもなく学徒たちの眠る激戦地の  
あとには、いみじくも野の草が繁り、虫がすだくようになつた。

静かに瞑目して耳を傾ければ、今は亡き学徒たちの声なき声が聞  
えてくるようである。

今や我が国は、高度経済成長の中で大平ムードを満喫しているが、  
思えば今日のこの繁栄と平和の陰に、一死以て戦つたこれらの学徒  
のあつたことを忘れてはならないと思う。

ここに沖縄戦が終つた六月二十三日を想起して学徒たちが、「九  
段の社」に行けるのを無上の喜びとしていた靖国神社境内に於て、  
同神社神職により九段会館に於て「殉国沖縄学徒追悼慰霊祭」を行  
い、併せて「追悼の夕べ」を催すことにした。

何卒絶大なる支持と賛意をお願いする次第である。

期日、昭和四十年六月二十三日

「殉国沖縄学徒追悼慰霊祭」

「追悼の夕べ」

会場 九段会館ホール

時

午後五時～七時  
午後七時～九時  
午後九時～十一時

老口 貳千五百圓也



東洋書館社長 大井 徳三  
 著述 業 宮本 幸誠  
 日 長岡 添 弘  
 野 藤吉郎

式次 第

- 時刻参列者一同著席  
 齋主以下神職 著席
- 一 開式の挨拶
  - 一 吹奏樂（海行かば）
  - 一 修 被
  - 一 招 魂 警蹕（和琴、笙）
  - 一 献 餅 （山の幸 吹奏）
  - 一 齋主祝詞奏上
  - 一 主催者代表祭文奏上
  - 一 殉国学徒レフェム 斉唱
  - 一 玉串奉献（この間吹奏 慰安する）  
 主催者代表、遺族代表、来賓代表、沖縄学徒代表
  - 一 撤餅 （海の幸吹奏）蓋のみする
  - 一 送魂 （警蹕、和琴、笙）
  - 一 閉式の挨拶
  - 一 追悼の挨拶 下
  - 一 追悼の夕べ

追悼慰靈祭、一時 十二時  
 追悼の夕べ、二時三十分 五時